

宇都宮市立清原北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○1ヶ月の読書量が11冊以上と回答している児童の割合が市や県と比べても高い。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定割合は100%であり、県や市の平均より高い。今後も児童が活躍する場を多く設ける。

○「早ね・早起きを心がけている」の肯定割合は、市や県の平均をより高い。今後も学級活動やスクスクウィークなどを通して、規則正しい生活習慣を身に付けられるように指導を継続していく。

●「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」の肯定割合が県や市の平均より低い。授業の中で話し合う機会を増やすとともに、自分の意見の話し方・伝え方についても指導を行う。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の復習をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問で肯定割合が市や県の平均より低い。家庭学習の内容を自分で考えられるように、学習例を示したり、意欲を高められるような働きかけをしていく。

宇都宮市立清原北小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や 成就感を高める授業づくり	・めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり ・児童の意欲を喚起するデジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や板書、授業展開の工夫	「授業の中で、目標が示されている」の肯定的割合は、5年生が82.3%、4年生が89.5%であった。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」では、5年生が70.6%、4年生が63.1%であった。また、「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」では肯定的割合が、5年生は70.6%、4年生は42.2%だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・グループなどでの話合いに進んで参加することや友達の前で自分の考えや意見を発表することを苦手に感じている児童が多い。 ・自分の考えを文章にまとめて書くことは難しいと考えている児童が多い。	・話合い活動の充実 ・書く力を高めるための指導	・朝の会や集会のスピーチ、各教科での話合いの時間を設けたり、児童が話したくなるような課題を設定したりする。 ・字数を制限したり、短い言葉で要点をまとめたりしながら文章を書く活動を多く取り入れるようにする。また、基礎的な知識の習得を図ることに加えて、指定された用語を用いて説明する活動を意図的に取り入れる。